

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成19年9月10日(月)5校時
場 所 3年B組教室
学 級 岩泉町立岩泉中学校 3年B組
男子12名 女子12名 計24名
授業者 教諭・戸田 幸江

1 単元名及び教材名

単元名 三 状況に生きる
教材名 「故郷」 (光村図書 3年)

2 単元について

(1) 生徒について

生徒は一学期に第一単元「心の在り方」で表現に着目し人柄や心情をとらえることや、作品に示された作者の考えをとらえる経験をしてきている。授業に対しては真面目に取り組もうとする意識が強く、指示されたことや課題については自分なりに取り組んでいる。読解面では、手がかりがあるとそれに沿って読み取ろうとする生徒が多い。しかし、自らその手がかりを探すことや、必要な部分の抽出はできても、そこから思考する読み取りの深さには、個人差がある。また、登場人物の心情など、読み取ったことを言葉で表現させた時、生活経験の不足からくる語彙量の不足を感じる。難しい語句については解説を加えたり、辞書で引かせたりしている。また、自分の考えをもてない生徒や自分の考えを発言することを苦手としている生徒には根拠となる語句に線を引かせたり、根拠をもとに話させたりするように指導している。

生徒たちは、進路決定を控え、社会にも関心を持ち、一人の人間にはどうにもできないような理不尽な状況もあることに気づき始めている。しかし、人の在りようや生き方までには考えが及んでいない。この単元の学習で登場人物の心情や作者の意図を読み取ることで、このような状況の中でも、社会と関わりながら生きている人々に対して、自分なりの感想や考えを持たせ、社会や人間について考えるきっかけとさせたい。

(2) 教材について

中学校学習指導要領には第二・三学年「C読むこと」の目標として「目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身につけさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。」とある。また、第2・3学年の「内容C読むこと」には、「E文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」とある。この点について、これまで学習してきたことを踏まえ、さらに深化させる学習を旨としたい。本単元では、過酷な状況にあっても、それぞれの状況の中で生きている人々が描かれている。表現の特徴を味わい、それぞれの人物に寄り添って読み、自分ならばこのような状況の中でどう生きるだろうかと考える態度を養いたい。

教材「故郷」は中国近代文学の父とよばれる魯迅の作品であり、翻訳文学でありながら竹内好の名訳によって、それを感じさせない自然な文章で綴られている。最小限の人物が丁寧な描写で特徴的に描かれていて、形象化しやすい。構成は、時の流れに沿って「わたし」が話を運ぶ形で明快である。また、風景描写によって登場人物の心情を暗示したり、人物の描写によって作者の意図を伝えたりする表現が随所にみられる。それらに着目し、登場人物たちの揺れ動く心情や、作者の思想などを読み取らせたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、作品を読み深めるために、初発の感想や疑問点をもとに段落ごとに読みの視点として課題を立てる。作品の主題や価値にせまる課題を解決するために、何に着目すべきかということを考えさせる。そして、文章の表現や語句を根拠に考え、解決させる。必要な要素を抽出できること、それをもとに読み取ったり、自分の考えを持つことを目指している。そしてお互いの読み取ったことや考えを発表し、練り合うことで読みを深化させていきたい。また、登場人物の心情を読み取るためには文章のどの部分に着目すればよいかということも読み取りの技術として再確認させたい。

本教材では、時代背景や社会の状況について理解させることで、より作者の意図や主人公の心情を理解しやすくなると考える。そして、人物のおかれた状況を踏まえて登場人物の心情をつかませ、作品に対する理解を深めさせていく。本時では、ルントウの様子や二人の関係の変化、「わたし」の心情について考えさせ、発言し相互交流をする中でわたしの悲しみや、落胆、失望に気づかせたい。

3 単元の目標

- (1) 状況や時代背景を考えながら読み、社会と人間のかかわりを考えさせる。 (関心・意欲・態度)
- (2) 場面描写に着目して読み、登場人物の心情や作者の意図を読み取らせる。 (読む)
- (3) 身の回りの風景を二百～四百字で描写させる。 (書く)
- (4) 語句や表現の効果的な使い方に着目して作品を読み深めさせる。 (読む・言語事項)

4 学習指導計画（7時間扱い）

段階	時数	学習活動	評価規準	具体的評価規準		努力を要する生徒への手立て
				十分満足できる	おおむね満足できる	
つかむ・見通す	1	作品全体を通読する。初発の感想を書く。学習課題を設定する。	作品全体のあらすじをつかみ、印象に残ったことを中心に感じたことを書いている。	作品全体のあらすじをつかみ、主題に関わる内容に触れながら感じたことを書いている。	作品全体のあらすじをつかみ、印象に残ったことを中心に感じたことを書いている。	作品のあらすじで分からないことがないか確認し、どこが印象に残ったかを話させて、そのことを書くように促す。
読み取る	2	時代背景の確認と第一・二段落 故郷の変化とわたしの心情を読み取る。	現在の故郷の様子とわたしの心情を、情景が描写されている部分に着目して読みとっている	思い出の故郷と現在の様子の変化と「わたし」の心情を、心情が反映されている情景描写に着目して読み取っている。	現在の様子の情景が描写されている部分を抽出できている。「わたし」の心情を考えることができる。	情景描写の中に登場人物の心情が反映されていることもあることを補足説明し、探させる。
読み取る	3	第三段落 子どもの頃のルントウとの思い出を読み取る。	子どもの頃のルントウの様子とわたしとの関係を読みとっている。	ルントウの様子を描写している部分を抽出し、わたしにとってどんな存在かを読み取っている。	ルントウの様子を描写している部分を抽出し、わたしとの関係を読み取っている。	ルントウの様子を描写している部分をヒントを与えながら探させる。
読み取る	4	第四段落 ヤンおばさんの人柄と変わってしまった背景を読み取る。	ヤンおばさんの特徴や言動に着目し、ヤンおばさんの人柄を推測している。また、そうってしまった理由を考えている。	ヤンおばさんの様子や人柄を表す語句に着目し、その人柄を推測している。またそうってしまった理由を時代背景を考慮に入れて考えている。	ヤンおばさんの様子や人柄を表す表現や語句をみつけることができる。ヤンおばさんについて、その人柄を推測している。	ヤンおばさんの発言した内容のひとつひとつに線を引いて、どんな人柄だと思われるか想像させる。
読み取る	5 本時	第五段落 ルントウとの再会を終えた「わたし」の心情を読み取る。	ルントウの現在の様子や二人の関係の変化を表す言葉をもとに「わたし」の心情を読み取る。	ルントウの現在の様子や二人の関係の変化を表す語句をもとに、ルントウのおかれた社会状況や生活にふれて「わたし」の心情を読み取っている。	ルントウの外見や言動、態度や、二人の関係を表す語句をもとに「わたし」の心情を読みとっている。	ルントウの外見や言動や態度を表す語句を取り上げ昔のルントウと比較して考えさせる。
読み取る	6	第六段落 離郷の時の「わたし」の心情と「希望」の意味するものを読み取る。	離郷の時の「わたし」の心情と「希望」の意味するものを読み取る。	風景描写の変化に着目しながら、離郷の時の「わたし」の心情と「希望」の意味するものを読み取る。	離郷の時の「わたし」の心情を読み取っている。また、「希望」の意味するものを考えている。	「わたし」の心情表現している部分を探させる。「希望」の意味するものを書いてある場所を指摘させる。
まとめる	7	情景描写の表現を学ぶ。	伝えたい気持ちや状況を決め、周囲の様子を二百字～四百字で描写する。	伝えたい気持ちや状況を決め、周囲の様子を表現豊かに二百字～四百字で描写する。	伝えたい気持ちや状況を決め、周囲の様子を二百字～四百字で描写する。	伝えたい気持ちや状況を言わせ、周囲の様子を目に見るように書くように助言する。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

ルントウの現在の様子や、二人の関係を表す言葉をもとに、再会に失望するわたしの心情をよみとることができる。

(2) 展開

段階	学習活動と内容	予想される生徒の反応	支援活動と評価	時間
導入	1. 前時の学習内容の確認 ヤンおばさんとの再会場面ではわたしはどんな思いを抱いたか。 2. 本時の学習場面の確認 今日の再会をわたしはどんな思いで迎えたか。 3. 学習課題の確認 わたしは ルントウと再会して どのような思いだったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・かわいそう ・がっかりしたが、しかたがない。 ・再会を楽しみにしており、ルントウは故郷の美しい思い出そのものだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い感情はいただいていないが強いショックを受けたわけではない。あとでルントウとの再会と比較する下地にする。 ・子どもの頃のルントウを想起させる。 	6分
展開	4. 課題解決のための見通しをもつ 何に注目して読んでいけばいいか確認する。 5. 本時の範囲を音読する 6. 自力解決をする ルントウの外見、言動や態度にサイドラインを引きながら読む。 7. 発表する わたしの心情に視点を移す ・わたしの方はなぜ口からでなかったのか。 ・外見よりもショックだったのは何か ・だんな様と呼ばれたわたしの様子 ・悲しむべき厚い壁とは何なのか。 8. 話し合う・深める ルントウと再会した後のわたしの心情を考える。 ・わたしはどんな思いだったのだろう。 現在のルントウはわたしからはどのような人に見えるか。 ・わたしの心情をまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ルントウの様子（外見・行動・発言） ・わたしの心情 ・背丈は倍、顔は黄ばんだ色、深いしわ、目の周りが赤くはれて、古ぼけた帽子、薄手の綿入れ、太いひび割れた、松の幹のような手（貧しい・苦しい生活） ・喜びと寂しさの色、唇は動いたが声にならない（再会の喜びと身分の違いを意識した寂しさ） ・うやうやしい態度「だんな様！...。」（あきらめ） ・あまりの変わりように ・場にそぐわない ・「だんな様！」 ・身震いしたらしかった（衝撃・絶望） ・悲しむべき厚い壁が二人を隔てて～ ・乗り越えられない障害 ・身分の差、生活の差 ・二人の生活の差、身分の差は埋めることができないと感じた。 ・ルントウの変わりように驚いただけではなく、「だんな様」といわれて、ルントウに一線を引かれたようだった。 ・再会を楽しみにしていただけにもう昔の関係には戻れないと強く感じた。 ・首を振りどおし、石像のよう、 ・苦しみを言い表すすべがない ・子沢山...よってたかって、いじめ ・でくのぼうのような人、 （ショック、がっかり、悲しい、同情、せつない、失望） 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ルントウとの再会に関心を持ち、積極的に課題に取り組みようとしている。 ・観察法 【読む】 ルントウの外見や言動を読み取っている。 ・サイドライン 【言語事項】 「壁」「でくのぼう」等のここでの意味を理解している。 ・観察、発表 ・これまで取り上げた言葉をもう一度想起させる。 【読む】 わたしの心情を読み取っている。 ・発表、ノート（カード） 子どもの頃のルントウと比較 	38分
終末	9. まとめる 自分の言葉でまとめよう。 期待していた再会だったが、ルントウのあまりの変わりように、言葉もなかった。何よりも「だんな様」と言われ、とてもショックだった。もう昔のような関係にはもどれないことが悲しく、やるせない。故郷に対する失望も絶望に変わった。 10. 評価		<ul style="list-style-type: none"> 【書く】 学習したことのまとめを自分の表現で書いている。 ・ノート 相互評価も行う（友達の発言から参考になったこと） 	7分

五 課題

わたしは ルントウと再会してどのような思いだったのだろうか。

見通し

- ・ ルントウの様子・再会の様子
- ・ わたしの気持ち(行動・発言)

ルントウ

外見
背丈は倍
黄ばんだ顔・深い皺
赤くはれた目
ふるぼけた帽子
薄い綿入れ
ひびわれた、
松の木のよつな手

- ・ 喜びとさみしさ
 - ・ 唇は動いたが
 - ・ うやうやしい態度
 - ・ 「だんな様!...」
 - ・ 苦しさを感じてはいてもそれを言葉に
 - ・ でのぼつのような人間
 - ・ 子だくさん、貧乏、凶作、...
- あきらめ
貧乏・苦しい生活

「だんな様!...」

悲しむべき厚い壁

身分の差・生活の差
乗り越えられない障害

・ 何かでせき止められたように、...口からは出なかった。

わたし

- ・ 二人の生活の差はつめることができない。もう昔の関係には戻れない。
- ・ かわいそうでも、どうしてやることもできない。
- ・ ルントウの変わりように驚いただけでなく、「だんな様」といわれて、一線をひかれたような感じがした。
- ・ 再会を楽しみにしていただけに、ショックが大きかった。

- ・ 驚いた
- ・ ショック
- ・ 痛々しい・かわいそう
- ・ 悲しい・寂しい
- ・ せつない・やるせない
- ・ 失望・絶望

まとめ(例)

期待していた再会だったが、ルントウが、時代や社会状況のせい、あまりにも変わってしまったことに驚き、何よりも「だんな様」と言われとてもショックだった。もう昔の関係にもどれないことが悲しく、厚い壁に隔てられたと感じた。そしてまたここでも故郷に失望した。